

5. 資料

1. 研修指導

1) 健康福祉センター(保健所)等職員研修

研修名	内 容	期 間	人数
飲料水の細菌検査コース (2日間)	飲料水を検体とした一般細菌及び大腸菌の検査実習	平成25年5月23日～24日	4
細菌検査コース (9日間)	便及び食品に添加した細菌の検出	平成25年5月27日～30日 平成25年6月17日～21日	4
食品異物混入に関する基礎研修 (1日間)	食品混入異物の取扱方法及び搬入方法	平成25年6月4日	16
ノロウイルス検査コース (3日間・2回)	ノロウイルスに関する講義及びRT-PCR法の実習	平成25年6月12日～14日 平成25年6月19日～21日	3 4
結核菌検査コース (1日間)	喀痰の塗抹検査	平成25年6月26日	4
食品化学検査コース (2日間)	乳及び乳製品の成分規格に関する講義及び実習	平成25年6月27日～28日	4
食品の業務管理監視コース (半日間・2回)	業務管理に基づく検体の採取、搬送等の取扱方法	平成25年7月4日 平成25年7月5日	6 6
食品混入異物の相談業務コース (1日間・2回)	食品混入異物に関する講義及び実習	平成25年7月25日 平成25年10月24日	4 3
感染予防コース～施設内感染対策研修～ (1日間)	社会福祉施設等における感染対策に関する知識の習得	平成25年8月9日	40
新任者研修 (19日間)	細菌検査、ウイルス検査に関する講義及び実習	平成25年8月26日～9月20日	5
食品の業務管理検査コース (2日間)	検査施設における業務管理に基づいた検査手法	平成25年10月24日～25日	4
細菌検査コース (半日間・2回)	食品中の混入異物のカビ検査	平成25年11月1日 午前 同 日 午後	3 3
衛生動物の相談業務コース (1日間)	衛生動物に関する講義及び実習	平成25年11月20日	3
新任者研修 (15日間)	細菌検査に関する講義及び実習	平成25年11月25日 ～12月13日	4
レジオネラ属菌検査コース (4日間)	レジオネラ属菌検査に関する講義及び実習	平成26年1月14日・15日・ 22日・24日	4

2) 依頼研修

研 修 名	内 容	期 間	人数
東京農業大学農学部畜産学 科家畜衛生学研究室 細菌検査に係る研修	ピーズ法による集菌法に関する講義と 実技	平成 25 年 6 月 5 日	2
八千代市立八千代台小学校 親の職場体験学習	衛生研究所の仕事内容の学習と施設見 学	平成 25 年 8 月 16 日	2
日本大学生物資源科学部 獣医学科	パルスフィールドゲル電気泳動像の解 析方法	平成 25 年 9 月 27 日	4
慶應義塾大学医学部学生公 衆衛生学実習	地方衛生研究所での公衆衛生活動の実 際について	平成 25 年 11 月 1 日	4
茨城県衛生研究所 結核菌 検査に関する技術研修	結核菌 VNTR 検査の測定法及び解析法	平成 25 年 12 月 18 日 ~ 19 日	1
淑徳大学看護栄養学部研修 及び施設見学	食品衛生学に関する研修及び施設見学	平成 26 年 1 月 10 日 午前 同 日 午後	40 40

3) 夏休みサイエンススクール

講座内容	担当研究室	期 日	人数
「医薬品について学ぼう」	医薬品研究室	平成 25 年 7 月 29 日	6

4) 地域保健臨床研修

講座内容	期 間	合計人数
衛生研究所概要、食品検査業務、メタ ボリックシンドロームと疫学・公衆衛 生	平成 25 年 11 月 11 日	1

2. 講師派遣

年月日	研修・講習会名等	主 題	会 場	担当室・課
25. 4. 9	水道担当新任職員研修会	水質基準の概要	印旛健康福祉センター	生活環境研究室
25. 4. 9	平成25年度環境衛生監視員基本研修	温泉成分分析について	印旛健康福祉センター	生活環境研究室
25. 4.11	水道担当新任職員研修会	水質基準の概要	君津健康福祉センター	生活環境研究室
25. 4.16	鴨川市食生活改善協議会平成25年度定例総会講演会	第2次千葉県食育推進計画の概要と推進員活動	鴨川市ふれあいセンター	技監
25. 4.16	水道担当新任職員研修会	水質基準の概要	習志野健康福祉センター	生活環境研究室
25. 4.19 4.26	東京農業大学畜産学科非常勤講師	家畜疾病学	東京農業大学厚木キャンパス	細菌研究室
25. 5.10 5.17 5.24 5.31	東京農業大学畜産学科非常勤講師	家畜疾病学	東京農業大学厚木キャンパス	細菌研究室
25. 5.10	平成25年度水質検査精度管理研修会	有機物（全有機炭素(TOC)の量）、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素の外部精度管理の結果について	千葉県庁	生活環境研究室
25. 5.10	千葉県風しんワクチン接種緊急補助事業説明会	風しんの流行状況について	県庁中庁舎	感染症学研究室
25. 5.25	平成25年度第2回千葉県栄養士会総会特別講演	「健康ちば21（第2次）」の概要と栄養士の役割	千葉県立保健医療大学	技監
25. 6. 5	平成25年度環境衛生監視員基本研修	衛生害虫概論 レジオネラ属菌の知識 VOC等の概説と測定機器の取扱い	衛生研究所	医動物研究室 生活環境研究室
25. 6. 6	千葉県薬物乱用防止指導員山武健康福祉センター地区協議会研修会	違法ドラッグについて	山武健康福祉センター	医薬品研究室
25. 6. 6	千葉県薬物乱用防止指導員海匝健康福祉センター地区協議会研修会	違法ドラッグについて	海匝健康福祉センター	医薬品研究室
25. 6. 7 6.28	平成25年度結核研究所保健看護学科研修	分子疫学からみた感染の現状と保健師の役割	公益財団法人結核予防会結核研究所	感染症学研究室
25. 7.10	平成25年度環境衛生監視員継続研修	飲料水の放射能検査について 鉱泉分析法の概要	衛生研究所	生活環境研究室
25. 7.16	サポウイルスによる食中毒事例についての報告	サポウイルスについて	松戸健康福祉センター	感染症学研究室
25. 7.17	聖徳大学公衆栄養学臨地事前指導特別講義	「健康ちば21（第2次）」の概要と管理栄養士の役割	聖徳大学松戸キャンパス	技監
25. 7.26	MDRAb(多剤耐性アシネトバクター・パウマニ)を原因とする院内感染についての情報収集	アシネトバクター感染症について	野田健康福祉センター	感染症学研究室

年月日	研修・講習会名等	主 題	会 場	担当室・課
25. 8. 8	平成25年度環境衛生監視員 継続研修	有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律関連講義 (主に衣料品のホルムアルデヒド含有について) レジオネラ症患者発生時の対応 疫学情報分析と事例検討、演習	県庁南庁舎	医薬品研究室 感染症学研究室
25. 8. 9	保健所等職員研修	「感染予防コース～施設内感染対策研修～」	千葉県看護研修所	細菌研究室 ウイルス研究室 医動物研究室 感染症学研究室
25. 8.10	有害害虫研究会フォーラム	千葉県におけるマダニ生息状況	川崎市労働会館	医動物研究室
25. 8.28	平成25年度環境衛生監視員 継続研修	VOC等の概説と測定機器の取扱い	衛生研究所	生活環境研究室
25. 9.12	東金市母子保健推進協議会 研修会	風疹について	東金市ふれあい センター	所長
25. 9.19 ～9.20	平成25年度健康危機対策基礎 研修会	細菌による食品媒介感染症について ウイルスによる集団発生時案・輸入感染症について 毒劇物等による健康危機事案について 飲料水による健康危機事案について 健康危機管理における疫学について	県庁南庁舎	細菌研究室 ウイルス研究室 医薬品研究室 生活環境研究室 感染症学研究室
25. 9.24	すみだ食育リーダー育成講習 会	食で「健康」を育む	墨田区役所	技監
25. 9.25	衛生害虫にかかる研修会	セアカゴケグモについて	市原市保健セン ター	医動物研究室
25. 10.3 10.17 10.21	鶴舞看護専門学校非常勤講師	微生物学	鶴舞看護専門学 校	所長
25.10.10	佐野県議会議員県政報告会での 講演会	食べものと健康～千葉県で気をつける点	オークラ千葉ホ テル	技監
25.10.23	第72回日本公衆衛生学会総会 自由集会「結核の集団発生の 対策に関する自由集会」	遺伝子タイピングによって集団感染が 判明した事例	三重県総合文化 センター	感染症学研究室
25.10.30	平成25年度印旛農業事務所管 内食育情報交換会	企業・NPO・ボランティア・行政	千葉県印旛合同 庁舎	技監
24.11. 8	平成25年度検査業務に関する 研修会	下痢症ウイルスの検査法 千葉県におけるマダニ類の生息状況	千葉市生涯学習 センター	ウイルス研究室 医動物研究室
25.11.12	千葉県保健所長会	国立感染症研究所 FETP(実地疫学専門 家養成コース)について	千葉市保健所	感染症学研究室
25.11.14 11.21 11.28	鶴舞看護専門学校非常勤講師	微生物学	鶴舞看護専門学 校	所長
25.11.22	平成25年度君津農業事務所管 内食育情報交換会	第2次千葉県食育推進計画について	君津市生涯学習 交流センター	技監
25.11.25	平成25年度千葉県肝炎コー ディネーター養成研修会	B型及びC型肝炎ウイルスの検査方法及 び判定基準	プラザ菜の花	ウイルス研究室

年月日	研修・講習会名等	主 題	会 場	担当室・課
25.11.27	千葉県消防学校特殊災害科	危険性物質に関わる基礎知識および関係法令	千葉県消防学校	細菌研究室 ウイルス研究室 医薬品研究室
25.11.28	平成25年度食中毒調査・処理等に係る食品衛生監視員専門研修	食中毒調査時における細菌検査について ノロウイルス食中毒の予防と対策 アウトブレイク調査の基本ステップについて	千葉聴覚障害者センター	細菌研究室 ウイルス研究室 感染症学研究室
25.12.3	平成25年度千葉県保険医協会医療安全講習会	感染症の基礎知識	千葉市民会館	感染症学研究室
25.12.9	地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部専門家会議(環境衛生部門)	平成23～25年度における室内空気中化学物質の測定事例	東京都健康安全研究センター	生活環境研究室
25.12.10	千葉県保健所長会	ノロウイルスについて	千葉市総合保健医療センター	ウイルス研究室
26.12.12 12.19	鶴舞看護専門学校非常勤講師	微生物学	鶴舞看護専門学校	所長
25.12.19	平成25年度食中毒調査・処理等に係る食品衛生監視員専門研修	食中毒調査時における細菌検査について ノロウイルス食中毒の予防と対策 アウトブレイク調査の基本ステップについて	千葉聴覚障害者センター	細菌研究室 ウイルス研究室 感染症学研究室
25.12.25	東京大学千葉演習林職員研修	千葉県のマダニにおける病原体の検出状況および千葉県におけるマダニ類の生息状況	東京大学千葉演習林	ウイルス研究室 医動物研究室
26.1.8 1.10	平成25年度感染症等発生時の記述疫学研修について	感染症及び食中毒発生時の記述疫学分析について	香取健康福祉センター	感染症学研究室
26.1.14	千葉県保健所長会	千葉県内の結核菌伝播状況	千葉市保健所	感染症学研究室
26.1.20	平成25年度感染症研修会	疥癬症の基礎知識	野田健康福祉センター	医動物研究室
26.1.28	平成25年度結核研究所「結核対策総合コース」	分子疫学からみた感染の現状と保健師の役割	公益財団法人結核予防会結核研究所	感染症学研究室
26.1.29	平成25年度第1回厚生科学審議会結核部会	千葉県内の結核菌伝播状況～結核菌VNTRデータベース解析結果から～	厚生労働省	感染症学研究室
26.1.30	平成25年度感染症予防講演会	感染症(結核を含む)の予防と発生時の対応	香取市佐原中央公民館	感染症学研究室
26.1.30 ～31	平成25年度食品衛生検査部門責任者等研修会	アウトブレイクの早期探知と早期対応 鮮魚中の一酸化炭素の検査方法について 妥当性評価ガイドラインについて 食品中の放射性物質検査の方法と信頼性について 遺伝子組換え食品の検査法について	千葉県教育会館	感染症学研究室 検査課 食品化学研究室
26.2.6	第26回地研全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会研究会シンポジウム	次世代シーケンサーの基本と細菌検査への応用 地方衛生研究所での試み(2) ～新たな分子疫学への試み	東京都健康安全研究センター	細菌研究室
26.2.21	平成25年度食品衛生研究協議会北総地区研究会研修会	カビの有用性	八日市場地域保健センター	細菌研究室
26.2.22 ～23	平成25年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会シンポジウム	腸管出血性大腸菌O157の進化系統グループの地域間比較 牛肉の生食規制が腸管出血性大腸菌感染症発生に与えた影響について	幕張メッセ	細菌研究室

年 月 日	研修・講習会名等	主 題	会 場	担当室・課
26. 3. 6	平成25年度食品衛生研究協議会南総地区研究会研修会	アレルギー物質を含む食品について	長生合同庁舎	食品化学研究室
26. 3. 7	平成25年度第2回検査担当職員研修会	遺伝子組換え食品について	印旛健康福祉センター	食品化学研究室

3．公開講座

県民を対象に健康で安全な生活を送るための知識の普及・啓発を目的とした公開講座を平成 18 年 12 月に第 1 回を開催し、今年度は以下の内容で開催した。

回 数	題 名	研究室・講師	参加者数
第 14 回 (平成 25 年 12 月 21 日)	講演 1 「腸管出血性大腸菌感染症について ～牛肉の生食禁止でみえてきたこと～」	細菌研究室 平井晋一郎	53
	講演 2 「遺伝子組換え食品について ～取り巻く状況を検査の立場から～」	食品化学研究室 中西希代子	

4．精度管理事業

保健所や食品衛生検査施設等での試験検査の精度管理事業で、実施主体が当研究所のものを下記に示す。なお、内容の詳細は当該研究室・課の業務概要を参考にされたい。

- 1) 保健所等試験検査の精度管理調査(細菌研究室)
- 2) 保健所等試験検査の精度管理調査(ウイルス研究室)
- 3) 水道水検査精度管理(生活環境研究室)

5. 試験検査件数

検査項目	依頼によるもの				依頼によらないもの	計
	住民	健康福祉センター	健康福祉センター以外の行政機関	その他（医療機関、学校、事業所等）		
結核性病		279				279
ウイルス・リケッチア等検査		1,090	3,031	72	786	4,979
病原微生物の動物試験						
原虫・寄生虫等		41		6		47
食中毒		729	1	12		742
臨床検査		27	1			28
食品等検査		1,483	260	97	8	1,848
（上記以外）細菌検査		69		18		87
医薬品・家庭用品等検査			351			351
栄養関係検査						
水道等水質検査		21	234			255
廃棄物関係検査						
環境・公害関係検査			2	2		4
放射能			750			750
温泉（鉱泉）泉質検査				1		1
その他						
計		3,789	4,630	208	794	9,421

6. 調査研究課題一覧（平成 25 年度実施重点課題）

No	調査研究課題	期間	担当課・室
1	安房地域の生活習慣病に関する疫学調査研究 （「安房地域女性の長寿の要因に関する疫学調査研究」から課題名変更）	平成 15 年度 ～平成 25 年度	健康疫学研究室
2	千葉県における動物由来感染症のためのサーベイランスシステムの確立と動物由来感染症の実態調査	平成 21 年度 ～平成 25 年度	ウイルス研究室
3	離島・農村地域における効果的な生活習慣病対策の運用と展開に関する研究	平成 24 年度 ～平成 26 年度	技監
4	子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）参加者における健康関連指標の経時的モニタリングについての研究	平成 23 年度 ～平成 37 年度	技監
5	千葉県における外来衛生害虫の生息調査	平成 23 年度 ～平成 25 年度	医動物研究室
6	特定健診・保健指導下での個人及び集団アプローチの再構築とその評価	平成 23 年度 ～平成 25 年度	技監
7	クロコウジカビおよび近縁種のヒトの健康に対する安全性の評価 （「クロコウジカビ及びその近縁種の安全性の評価」から課題名変更）	平成 24 年度 ～平成 26 年度	細菌研究室
8	医薬品の定量法における粉碎方法の影響について	平成 24 年度 ～平成 25 年度	医薬品研究室

No	調査研究課題	期 間	担当課・室
9	千葉県内の温泉水におけるレジオネラ属菌に対する有効な殺菌剤の検討とそれに伴う温泉の泉質変化の調査	平成 24 年度 ～平成 25 年度	生活環境研究室
10	腸管出血性大腸菌 O157 の系統学的解析による動態の把握	平成 25 年度 ～平成 27 年度	細菌研究室
11	紅斑熱群リケッチアの浸潤状況調査	平成 25 年度 ～平成 27 年度	ウイルス研究室 医動物研究室
12	LC/MS/MS による加工食品中のグリホサート分析法の確立	平成 25 年度 ～平成 26 年度	食品化学研究室

6 - 2 . 調査研究課題一覧 (平成 25 年度実施の一般課題)

No	調査研究課題	期 間	担当課・室
1	千葉県大規模コホート調査研究	平成 21 年度 ～平成 25 年度	健康疫学研究室
2	病原細菌の細菌学的・系統学的解析 (課題名: H21「千葉県における細菌感染症による健康危機事例発生の制御に関する研究」 H23「千葉県における細菌感染症の分子疫学的解析による健康危機事例発生の制御に関する研究」)	平成 22 年度 ～平成 26 年度	細菌研究室
3	ウイルス性胃腸炎検査法の検討	平成 23 年度 ～平成 25 年度	ウイルス研究室
4	食品の特定原材料検査に関する定性 PCR 法の検討 (その 3)	平成 23 年度 ～平成 25 年度	食品化学研究室
5	シックハウス症候群の原因となる室内空气中化学物質の測定方法の確立	平成 23 年度 ～平成 25 年度	生活環境研究室
6	室内空气中の総揮発性有機化合物 (TVOC) 測定法の確立と実態調査	平成 24 年度 ～平成 25 年度	生活環境研究室
7	ICP-MS 測定による千葉県内の飲料水中の金属類の検出状況調査	平成 24 年度 ～平成 26 年度	生活環境研究室
8	感染症情報センター業務に係るレセプト情報の利活用について	平成 24 年度 ～平成 25 年度	感染症学研究室
9	ライトトラップで捕獲される飛来昆虫の季節消長について	平成 25 年度 ～平成 27 年度	医動物研究室
10	健康食品中のスタチン系薬剤の一斉分析法について	平成 25 年度 ～平成 26 年度	医薬品研究室

7. 受託研究及び共同研究一覧

№	調査研究課題	実施主体	事業名	担当室・課
1	離島・農村地域における効果的な生活習慣病対策の運用と展開に関する研究	厚生労働省	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病等対策総合研究事業	技監
2	日本人の食事摂取基準の策定に資する代謝性疾患の栄養評価に関する研究	厚生労働省	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病等対策総合研究事業	技監
3	高感度CRP値、耐糖能と循環器疾患、腎障害、要介護状態の発症に関するコホート研究	公益信託 日本動脈硬化予防基金	コホート研究	技監
4	特定健診・保健指導システム下での個人及び集団アプローチの再構築とその評価	学術振興会	科学研究費助成事業 (挑戦的萌芽研究)	技監 健康疫学研究室
5	千葉県職員の健診・指導成績の縦断的比較と試行的介入成績を用いた介入方法の提言に関する研究	公益財団法人 ちば県民保健予防財団	平成25年度調査研究事業	技監 健康疫学研究室
6	安房地域における生活習慣病に関する疫学調査(おたっしゅ調査)を用いた中高齢者の食生活と生活習慣病・骨折発症・健康余命・自立期間に関する10年間のコホート研究	社団法人日本酪農乳業協会内「乳の学術連合」	平成25年度牛乳乳製品健康科学学術研究	技監 健康疫学研究室
7	ワイナリーおよび離島における醸造用菌株の調査	千葉大学真菌医学研究センター	共同利用研究	細菌研究室
8	黒麹菌および <i>Aspergillus niger</i> のカビ毒産生性、分生子形成およびゲノムデータに基づく類縁関係の解明	千葉大学真菌医学研究センター	発酵研究所助成金	細菌研究室
9	黒麹菌および <i>Aspergillus niger</i> の代謝活性物質の検出	千葉大学真菌医学研究センター	発酵研究所助成金	細菌研究室
10	麻疹ならびに風疹排除およびその維持を科学的にサポートするための実験室検査	厚生労働省	新型インフルエンザ等新興・再興感染症事業	ウイルス研究室
11	ワクチンにより予防可能な疾患に対する予防接種の科学的根拠の確立及び対策の向上に関する研究	厚生労働省	新型インフルエンザ等新興・再興感染症事業	ウイルス研究室
12	感染症を媒介する節足動物の分布・生息域の変化、感染リスクの把握に関する研究	厚生労働省	新型インフルエンザ等新興・再興感染症事業	ウイルス研究室
13	HIV 検査相談の充実と利用機会の促進に関する研究	厚生労働省	エイズ対策研究事業	ウイルス研究室
14	千葉県における紅斑熱原因リケッチアの浸潤状況調査	公益社団法人 ちば県民保健予防財団	ちば県民保健予防基金事業助成	ウイルス研究室
15	医薬品の品質ガイドラインの実施に係る品質試験及び試験実施機関の品質システム等に関する研究	国立医薬品食品衛生研究所	厚生労働科学研究(医薬品医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業)	医薬品研究室

No	調査研究課題	実施主体	事業名	担当室・課
16	平成 25 年度食品残留農薬等一日摂取量調査	厚生労働省	平成 25 年度食品中の残留農薬等の一日摂取量調査	食品化学研究室
17	定性リアルタイム PCR 法を用いた遺伝子組換えサケ (<i>AquAdvantage</i> 系統) 妥当性確認試験	国立医薬品衛生研究所	安全性未承認 GM 食品の監視対策事業	食品化学研究室
18	平成 25 年度遺伝子組換え食品検査の外部精度管理調査	国立医薬品衛生研究所	平成 25 年度遺伝子組換え食品検査外部精度管理調査	食品化学研究室
19	平成 25 年度食品添加物一日摂取量調査	国立医薬品衛生研究所	マーケットバスケット方式による年齢層別食品添加物の一日摂取量調査研究事業	食品化学研究室
20	室内環境における準揮発性有機化合物の多経路曝露評価に関する研究	厚生労働省	平成 25 年度厚生労働科学研究補助金化学物質リスク研究事業	生活環境研究室

8. 他誌発表・学会発表・著書等

1) 他誌発表

(1) 離島・農村地域における効果的な生活習慣病対策の運用と展開に関する研究 - 千葉県海匝地域での対策の実施と評価 -, 佐藤眞一、小窪和博¹⁾。離島・農村地域における効果的な生活習慣病対策の推進に関する研究 平成24年度 総括・分担研究報告書(2013) 14-26

千葉県では、健康増進計画の推進母体を地域・職域連携推進協議会としている。さらに、千葉県地域・職域連携推進事業要綱を作成し、それに基づき保健所圏域ごとに地域・職域連携推進協議会を設置し、地域特性に応じた推進を行っている。2011年度までの検討の結果、海匝地域は、いわゆる在来型の食生活に、嗜好飲料の加わったタイプであり、従前からのアプローチで減塩が可能と考えられた。2012年度は、海匝地域・職域連携推進協議会を通じて、ポピュレーション戦略・ハイリスク戦略のアクションプランを開始するとともに、モニタリング指標として、みそ汁等の食塩濃度、随時尿中排泄濃度等の把握を開始した。

1) 千葉県海匝健康福祉センター(海匝保健所)

(2) 離島・農村地域における効果的な生活習慣病対策の運用と展開に関する研究, 磯博康¹⁾、木山昌彦²⁾、佐藤眞一、山岸良匡³⁾、谷川武⁴⁾、小林美智子⁵⁾、嶽崎俊郎⁶⁾、白井こころ⁷⁾。平成24年度 総括研究報告書(2013) 1-8

1) 大阪大学大学院

2) 大阪がん循環器病予防センター

3) 筑波大学医学医療系

4) 愛媛大学大学院

5) 活水女子大学

6) 鹿児島大学大学院

7) 琉球大学

本研究では、離島・農村地域において現存する社会環境、保健医療分野の人材・資源を有効活用し、各地で試行されている対策を効率よくかつ効果的に進めるための方法論を整理、効果検証を行い、全国の離島・農村における対策実施のためのチェックリスト、実施の工夫項目を作成することを目的とする。本年度は、特定健診の受診勧奨、特定保健指導の参加勧奨、指導の実施、非肥満でハイリスク者への対応、ポピュレーションアプローチを充実するために、メディア・コミュニケーションツール技術応用のための講習会を開催した。また、対象地域である南城市の保健活動内容を見学する研修、意見交換会を開催した。そして、生化学検査(血清脂質検査)の標準化普及のための検討と全国の離島・農村における特定健診・特定保健指導の実施状況等と工夫に関するアンケート(案)の作成を行った。

(3) Adult height and body mass index in relation to risk of total stroke and its subtypes: the circulatory risk in

communities study. the Circulatory Risk in Communities Study (include Sato S). J Stroke Cerebrovasc Dis (2014) 23: 667-674

脳卒中および病型別脳卒中発症に及ぼす身長および肥満度の影響 CIRCUS

40-69歳、12,222人を17年追跡し、565例の脳卒中新規発症があった。身長の最低3分位(男159cm未満、女148cm未満)に対する最高3分位(男166cm超、女154cm超)の多変量調整ハザード比(95%信頼区間)は、男0.70(0.49-1.00)、女0.44(0.27-0.70)だった。BMIが 23kg/m^2 未満の対象に限ると、出血性脳卒中、虚血性脳卒中とも関連が強くなった。

(4) An association between central aortic pressure and subclinical organ damage of the heart among a general Japanese cohort: Circulatory Risk in Communities Study (CIRCUS), the Circulatory Risk in Communities Study (include Sato S). Atheroscler (2014) 232: 94-98

日本人一般集団における中心動脈圧と心臓の潜在的障害の関連 CIRCUS

40-79歳男女、3,002人の断面調査成績。HEM-9000AI deviceによる中心動脈圧と安静時心電図所見を比較した。中心動脈圧の最低3分位に対する最高3分位の多変量調整オッズ比(95%信頼区間)は、左室高電位 2.7(1.9-3.9)、高度STT異常 1.8(1.1-2.9)、軽度STT異常 1.7(1.3-2.3)、左室肥大 3.2(1.3-8.1)だった。非高血圧者に限っても、左室高電位 2.8(1.7-4.6)と軽度STT異常 1.7(1.2-2.4)との関連は有意だった。

(5) Heavy alcohol consumption and risk of atrial fibrillation. The Circulatory Risk in Communities Study (CIRCUS), Circulatory Risk in Communities Study (include Sato S). Circulation J (2014) 78: 955-961

大量飲酒と心房細動のリスク

30-80歳、8,602人を中央値6.4年追跡し、296例の心房細動新規発症があった。非飲酒者に対する多変量調整ハザード比(95%信頼区間)は、禁酒者 1.30(0.68-2.49)、微量飲酒者(1日当たり1合まで) 0.89(0.60-1.32)、少量飲酒者(1から2合) 1.19(0.73-1.95)、中等量飲酒者(2から3合) 1.36(0.79-2.35)、大量飲酒者(3合以上) 2.90(1.61-5.23)だった。

(6) 脂質(総脂肪、飽和脂肪酸、n-6系脂肪酸、n-3系脂肪酸、一価不飽和脂肪酸、トランス脂肪酸、コレステロール), 江崎治¹⁾、山崎聖美²⁾、三浦進司³⁾、佐藤眞一。日本人の食事摂取基準の策定に資する代謝性疾患の栄養評価に関する研究 平成25年度総括・分担研究報告書(2014)561-564

2015年版日本人の食事摂取基準策定のため、総脂肪(脂肪エネルギー比率)、飽和脂肪酸、n-6系脂肪酸、n-3

系脂肪酸、一価不飽和脂肪酸、コレステロール、及びトランス脂肪酸について、PubMed からキーワードを用いて最近 5 年間の論文を網羅的に検索した。更にそれらの論文のアブストラクトから食事摂取基準と関連する論文を選択し、本文を精読し、レビューを行った。

- 1) 昭和女子大学
- 2) 国立健康・栄養研究所
- 3) 静岡県立大学

(7)n-3 系多価不飽和脂肪酸, 佐藤真一. 日本人の食事摂取基準の策定に資する代謝性疾患の栄養評価に関する研究 平成 25 年度総括・分担研究報告書(2014)616-635

n-3 系多価不飽和脂肪酸について、前回は論文精査以降に発表された 107 論文を精読し、レビューを行った。The Cochrane Library 2009, Issue 1 に比べ、全死亡や循環器疾患発症やがんを抑制するとする証拠が増えた。一方で、その他の疾患を含め、関連が無いとする研究やメタ解析も多くあったが、亢進あるいは増悪とするメタ解析は、リノレン酸と前立腺がんの一件を除いて見当たらなかった。親子保健領域の研究も増し、妊娠中や乳児期の n-3 系多価不飽和脂肪酸付加を、悪いとするものは無く、良いとするもの、関係しないとするものに分かれた。

(8) Linkage disequilibrium of the IS629 insertion among different clades of enterohemorrhagic *Escherichia coli* O157:H7/H-strains, Hirai S, Yokoyama E, Yamamoto T¹⁾. Infect Genet Evol (2013) 18: 94-99

腸管出血性大腸菌 O157 について、Insertion sequence 629 の保有パターンを調査し、集団遺伝学的解析を行った。異なる clade (進化系統学的分類の一つ)間で、その保有パターンが異なることが明らかとなった。また、clade 7 と clade 12 が異なる進化系統群であることが証明された。

- 1) 千葉大学

(9)Evolutionary model of the divergence of enterohemorrhagic *Escherichia coli* O157 lineage I/II clades reconstructed from high resolution melting and Shiga-like toxin 2 analyses, Etoh Y¹⁾, Hirai S, Ichihara S¹⁾, Maeda E¹⁾, Yokoyama E, Sera N¹⁾, Horikawa K¹⁾, Yamamoto T²⁾. Infect Genet Evol (2014) 22:140-145

疫学的関連性が確認されなかった感染者由来の腸管出血性大腸菌 O157 菌株について、High resolution analysis により、進化系統学的分類である clade に型別した。また、これら菌株について、Insertion sequence 629 の保有パターン、Stx2 産生量及び遺伝子を調査した。その結果、clade 12 感染者は、他の clade 感染者と比べて、血便発症率が低く、Stx2 産生量及び遺伝子保有率も低いことが明らかとなった。以上より、clade 12 は病原性の低い系統

群であることが示唆された。

- 1) 福岡県保健環境研究所
- 2) 千葉大学

(10)Variable number of tandem repeats(VNTR)解析の手法と結核対策への活用について, 蜂巣友嗣, 橋本ルイコ, 岸田一則, 横山栄二. 臨床病理(2013)61:12:1123-1135

積極的疫学調査の有効なツールとして期待される VNTR 解析の手法およびその活用法について解説した。既存の分子疫学的解析法との相違点や、解析領域の選定には結核菌遺伝系統の遺伝的多様性を考慮すべきことを明らかにした。VNTR 解析法は、結核感染経路の解明、初発か再燃かの判断、MDR 等の高リスク株のスクリーニング等、地域分子疫学および臨床現場の両面において活用が期待される。

(11)*Tonsilliphilus suis* gen. nov., sp. nov., causing tonsil infections in pigs, Azuma R¹⁾, Ung-Bok B¹⁾, Murakami S¹⁾, Ishiwata H²⁾, Osaki M³⁾, Shimada N³⁾, Ito Y¹⁾, Miyagawa E⁴⁾, Makino T⁵⁾, Kudo T⁶⁾, Takahashi Y⁷⁾, Yano I⁸⁾, Murata R¹⁾, Yokoyama, E. Int J Syst Evol Microbiol (2013) 63:2545-2552

Dermatophilus sp.類似の 3 菌株について分類学的に検討したところ、新菌種であることが判明した。命名規約に基づいて *Tonsilliphilus suis* と命名し、菌株を deposit した。

- 1) 東京農大
- 2) 西松建設
- 3) 動衛研
- 4) 酪農学園大
- 5) ヤクルト中央研
- 6) 理研
- 7) 北里大
- 8) 日本 BCG

(12)Characteristic systemic cytokine responses in children with human bocavirus-positive lower respiratory tract infection, Hirose Y¹⁾, Hamada H¹⁾, Wakui T, Ogawa T, Terai M¹⁾. Microbiol Immunol(2014) 58: 215-218

ヒトボカウイルス(HBoV)の下気道感染児のサイトカインの反応の特性を調査した。血清サイトカインは、HBoV 陽性児(n=14)と RSV 陽性児(n=28)と検討したところ著しく異なっており、この特徴的な反応は、HBoV に特有なものの一つと示唆された。

- 1)東京女子医科大学八千代医療センター

(13)アストロウイルスによる胃腸炎集団事例 - 千葉県, 堀田千恵美、小倉惇、仁和岳史、平良雅克、小川知子、岡本恵子¹⁾、檀谷幸子¹⁾、西原有里子¹⁾、橋本裕香¹⁾. 病原微生物検出情報(2013)7:205-206.

2013年3月に発生した、千葉県で初めてのアストロウイルスによる胃腸炎集団事例2事例について報告した。

2013年3月に同一保健所管内の小学校ならびに保育所において発生した胃腸炎集団事例から、アストロウイルスが検出され、集団発生の原因ウイルスと考えられた。2013年3月から4月にかけて、県内では散発の急性胃腸炎患者からアストロウイルスが9件検出された。全国においても検出率3%前後であることから、この時期の千葉県においては、アストロウイルスによる胃腸炎の小規模流行があったと考えられた。

1) 君津健康福祉センター疾病対策課

(14) RSウイルスと肺炎球菌が検出された老人福祉施設での集団発生事例 - 千葉県, 小倉惇、堀田千恵美、仁和岳史、平良雅克、小川知子、一戸貞人、東秋弘¹⁾、橋本裕香²⁾、檀谷幸子²⁾、岡本恵子²⁾。病原微生物検出情報(2013)7:208-209

有症者が67名にものぼった本事例の主たる原因は、入院患者のうち検体搬入された9名中6名からRSVが検出されたことから、RSV感染であったと推察された。これらの6名は、RSV関連肺炎と考えられ、うち3名は尿中肺炎球菌抗原検査が陽性であり、CRP値の増加および白血球数の増加所見からも、RSVと肺炎球菌の重複感染と考えられた。

本事例では肺炎が多数みられ、3名が死亡していることから、乳幼児に加え、高齢者に対しても同等の注意および対応が必要である。

1) 栄陽会東病院

2) 君津健康福祉センター

(15) Enantiomeric Determination of DOPA in Dietary Supplements Containing Mucuna Pruriens by Liquid Chromatography/Mass Spectrometry, Hasegawa T., Takahashi K., Fukiwake T., Saijo M., Motoki Y. 食品衛生学雑誌(2013)54: 379-383

液体クロマトグラフィー質量分析によるムクナ含有健康食品中のDOPAの迅速な光学異性体分析方法を開発した。内部標準物質としてL-DOPA-ring-d3を用い、イオン化はESIポジティブモードで行った。添加回収試験(50及び500µg/g添加)を行ったところ、回収率は97.5~101.3%、併行精度と室内再現精度は7%以下であり良好な結果が得られた。本試験法を市販健康食品14製品に適用したところ、L-DOPAは1カプセル又は1錠当たり0.88~12.8mg検出されたが、D-DOPAはいずれの製品からも検出されなかった。

(16) 医薬品の定量法における粉碎方法の影響について, 高橋和長、長谷川貴志、西條雅明、吹譯友秀、浜名正徳。医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス(2014)45(2): 140-146

錠剤を粉末にして定量試験を行うよう日本薬局方に定められている医薬品を対象として、磁製乳鉢、めのう乳鉢及びステンレス製錠剤粉碎機による粉碎操作を行い、その粉碎方法の違いにより定量結果に影響が生じるかどうか調査した。その結果、製品によっては、粉碎方法により定量結果に差が生じることがあり、的確な定量試験を実施するためには、粉碎方法についても十分に検討する必要があると考えられる。

(17) ダイエット効果を標榜した「いわゆる健康食品」から検出された医薬品成分について, 長谷川貴志、和漢薬(2014)730: 13-14

医薬品が検出されたダイエット効果を標榜した「いわゆる健康食品」による健康被害や含有されていた医薬品成分及びその分析法について解説した。

(18) マーケット・バスケット調査方式によるグリホサートの一日摂取量の推定(第報), 中西希代子、宮本文夫、橋本博之、本郷猛、林千恵子、石井俊靖。日本食品化学学会誌(2013)20: 37-41

マーケット・バスケット方式により ~ 群のトータルダイエット試料を調製し、先に報告した蛍光検出器付き高速液体クロマトグラフィー(HPLC-FL)による定量法を用いてグリホサートの分析を行った。これを基に一日摂取量の推定を試み、併せて検出食品群中の個別食品についても調査した。14食品群のトータルダイエット試料をHPLC-FL法で測定した結果、グリホサートは2010年と2011年のいずれの年も、14食品群のうち ~ 群および ~ 群から検出され、その他の群からは検出されなかった。グリホサートの一日摂取量は全群で2010年は24.14 µg/day、2011年は17.53 µg/dayと推定され、これはADIを大きく下回っており、今回の調査では食品を介したグリホサートの摂取について、極めて低いレベルと考えられた。グリホサートが検出された食品は、 ~ 群ではパン類、ふ、中華めん、ゆでそばおよびマカロニであり、 ~ 群ではしょうゆであった。また、HPLC-FL法でグリホサートが検出された上述の ~ 群, ~ 群およびその個別食品についてLC-MS/MS法を使用してグリホサートの定性分析を行ったところ、マスパターンからグリホサートであることが確認された。これらの食品には、小麦が原材料として使用されており、小麦由来の可能性が高いと考えられた。

(19) 加工食品中の遺伝子組換えジャガイモ由来DNAを高感度に検出するためのPCRプライマー設計について, 中村公亮¹⁾、南竹優美¹⁾²⁾、中村香織¹⁾²⁾、小林友子¹⁾、野口秋雄¹⁾、高畠令王奈³⁾、橋田和美³⁾、橋本博之、川上浩²⁾、近藤一成¹⁾、手島玲子¹⁾、穂山浩¹⁾。日本食品化学学会誌(2013)20(3)

1) 国立医薬品食品衛生研究所

2) 共立女子大学

3) (独)農研機構 食品総合研究所

ジャガイモ加工食品中に含有する遺伝子組換えジャガイモの高感度検知法の開発を試みた。DNA の断片化の程度を、遺伝子組換え表示対象のジャガイモスナック菓子、冷凍ジャガイモ、乾燥ジャガイモ、ポテトサラダやグラタンなど調理済みジャガイモ、ジャガイモデンプン及びジャガイモデンプン加工食品を試料に増幅断片長が異なる種々の PCR プライマー対を調製し PCR にて解析を行った。高度に加工されたジャガイモデンプンや、ジャガイモデンプンをさらに加工した春雨は 51~101bp 断片長までを、その他の加工食品は 301bp 断片長までを増幅した。この結果から、市販のジャガイモ加工食品において標的増幅断片長 51~101bp のプライマー対を用いた場合、PCR を使用した標的配列の検出が可能であった。PCR を使用してジャガイモ加工食品中の遺伝子組換えジャガイモを高感度に検出するためには、標的増幅産物が 51~101bp 以下となるように PCR プライマー対を設計する必要性が示唆された。

2) 学会発表

(1)千葉県職員における特定健診時の情報提供を通じたメタボリック症候群発現抑制のための介入研究(第 1 報) - 研究デザイン -, 佐藤眞一¹⁾、角南祐子¹⁾、柳堀朗子²⁾。第 86 回日本産業衛生学会(2013): 愛媛

早食いとメタボに関連を認めたので、健診の場におけるリーフレット提供の効果検証をする effectiveness study を行う。知事部局等千葉県職員(2012 年 4 月 1 日現在で 10,931 人)で、公益財団法人ちば県民保健予防財団が受託実施する定期健康診断を受診した者。2013 年度の受診時にリーフレットを渡す。2012-13 年度、2013-14 年度の連続受診者間で比較する。デザインは、千葉県衛生研究所疫学研究倫理審査委員会(2012 年 12 月)を通じて研究者に開示し、千葉県職員健康管理審議会(2013 年 2 月)を通じて対象者に開示し、千葉県衛生研究所課題評価委員会(2013 年 6 月)を通じて千葉県民に開示した。

- 1) 県庁健康管理クリニック
- 2) ちば県民保健予防財団

(2)千葉県における食育の推進(第 6 報) - 二次計画の策定と始動 -, 佐藤眞一。第 72 回日本公衆衛生学会総会(2013): 三重

「ちばの恵みで まんてん笑顔」をキャッチフレーズとし、農林水産、健康福祉、教育の 3 分野に分けて責任分担を決め、本文 39 頁、資料 47 頁とコンパクトにできた。このことは、町村会代表として協議会に出席した町長が発言していたように、市町村計画につなげやすくなったと考える。また、10 農業事務所・3 林業事務所・3 水産事務所、13 保健所、5 教育事務所のそれぞれが、関与する部分を明確化できた。

(3)シンポジウム 15 本学会における健康リスク情報の共有化を目指して、座長・青柳潔¹⁾、佐藤眞一。第 72 回日本公衆衛生学会総会(2013): 三重

- 1) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科公衆衛生学分野

(4)大阪府における若年者の野菜及び朝食等摂取状況、中村清美¹⁾、井上正代²⁾、松本洋子³⁾、田中悦子⁴⁾、金山有希⁵⁾、大西智美⁵⁾、撫井賀代⁵⁾、黒川通典⁶⁾、堀野成代⁷⁾、多門隆子⁷⁾、佐藤眞一、吉田幸恵⁶⁾。第 72 回日本公衆衛生学会総会(2013): 三重

平成 23、24 年度に生活改善セミナーに参加した 994 人の断面調査。朝食欠食者の割合は、高校生 3.8%、大学生等 17.1%。BDHQ を用いた野菜摂取量の平均(標準偏差)値は、高校生 210.6 (135.3) g/day、大学生等 196.4 (130.0) g/day。

- 1) 大阪府藤井寺保健所
- 2) 大阪府枚方保健所
- 3) 大阪府寝屋川保健所
- 4) 大阪府泉佐野保健所
- 5) 大阪府健康医療部
- 6) 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科
- 7) 相愛大学

(5)栄養管理報告書による給食施設の現状と課題~施設指導への活用~, 坂本美由紀¹⁾、西本香代子²⁾、川端陽子³⁾、江上ひとみ¹⁾、竹内充代⁴⁾、中村清美⁴⁾、廣石正富⁵⁾、田中悦子⁵⁾、金山有希⁶⁾、大西智美⁶⁾、撫井賀代⁶⁾、古川和子⁷⁾、佐藤眞一。第 72 回日本公衆衛生学会総会(2013): 三重

平成 22 年 11 月分の栄養管理報告書を用いた断面調査。介護保険施設 280、児童福祉施設 302、事業所 119。栄養士未配置施設で野菜給与量が少ない。未配置施設に配置を促すとともに、重点的に指導する必要がある。

- 1) 大阪府四条畷保健所
- 2) 大阪府茨木保健所
- 3) 大阪府守口保健所
- 4) 大阪府藤井寺保健所
- 5) 大阪府泉佐野保健所
- 6) 大阪府健康医療部
- 7) 大手前栄養学院専門学校

(6)「うちのお店も健康づくり応援団の店」を活用した地域ぐるみの食育推進, 上村浩子¹⁾、渡邊東穂²⁾、柴田雅子³⁾、西本香代子¹⁾、江上ひとみ⁴⁾、中村清美⁵⁾、田中悦子⁶⁾、金山有希⁷⁾、大西智美⁷⁾、撫井賀代⁷⁾、多門隆子⁸⁾、佐藤眞一。第 72 回日本公衆衛生学会総会(2013): 三重

平成 23、24 年度に実施した 43 店舗での質問紙調査。

利用者 272、従業員 111。利用者より従業員の方が、知識・意識レベルが低い。店舗側にヘルシーメニューへの意識が利用者の方が高いことを伝え、売れるメニューの開発を指導するべきである。

- 1) 大阪府茨木保健所
- 2) 大阪府池田保健所
- 3) 大阪府岸和田保健所
- 4) 大阪府四条畷保健所
- 5) 大阪府藤井寺保健所
- 6) 大阪府泉佐野保健所
- 7) 大阪府健康医療部
- 8) 相愛大学

(7)大阪府保健所中ブロック食環境整備連絡会と連携した学生食堂での取組, 大西智美¹⁾、竹内充代²⁾、長谷川積美²⁾、藤井伊都子³⁾、中村顕³⁾、福島俊也⁴⁾、金山有希¹⁾、撫井賀代¹⁾、西村節子⁵⁾、矢澤彩香⁶⁾、古川和子⁷⁾、佐藤眞一。第72回日本公衆衛生学会総会(2013): 三重

大阪府中ブロック 13大学の学生食堂利用者の質問紙調査。介入開始時点の平成19年度と比較。11大学1,658人から回収。自覚的な健康状態、野菜の摂取で改善が見られた。ただし、「食堂しかない」利用者は減った。この間に、学校内のコンビニが充実した結果と思われるが、教職員からカップ麺やおにぎり等の利用が多いと指摘されており、食堂以外での介入も必要と考える。

- 1) 大阪府健康医療部
- 2) 大阪府藤井寺保健所
- 3) 大阪府八尾保健所
- 4) 大阪府富田林保健所
- 5) 関西福祉科学大学
- 6) 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究所
- 7) 大手前栄養学院専門学校

(8)健康食品の教育プログラム「栄養表示等リサーチ隊事業」の有用性の検討, 山口繁¹⁾、西本香代子²⁾、中村清美³⁾、江上ひとみ⁴⁾、金山有希⁵⁾、大西智美⁵⁾、撫井賀代⁵⁾、多門隆子¹⁾、佐藤眞一、吉田幸恵⁶⁾。第72回日本公衆衛生学会総会(2013): 三重

平成24年度の「栄養表示等リサーチ隊事業」に参加した管理栄養士課程学生102名の質問紙による参加時点と終了後の比較。いわゆる健康食品に関する知識の改善が認められた。

- 1) 相愛大学
- 2) 大阪府茨木保健所
- 3) 大阪府藤井寺保健所
- 4) 大阪府四条畷保健所
- 5) 大阪府健康医療部
- 6) 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究所

(9)大阪府の食育推進における「おおさか食育通信」の歩みと現状、課題, 西村節子¹⁾、金山有希²⁾、河中弥生子³⁾、黒川通典⁴⁾、江上ひとみ⁵⁾、中村清美⁶⁾、西本香代子⁷⁾、大西智美²⁾、多門隆子⁸⁾、佐藤眞一。第12回日本栄養改善学会近畿支部学術総会(2013): 大阪

平成16年4月からのホームページ「おおさか食育通信」のアクセス記録を整理。メルマガ配信数、訪問者数ともに増加し、学生等の若い世代からのアクセスも増えている。

- 1) 関西福祉科学大学
- 2) 大阪府健康医療部
- 3) 大阪青山大学
- 4) 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究所
- 5) 大阪府四条畷保健所
- 6) 大阪府藤井寺保健所
- 7) 大阪府茨木保健所
- 8) 相愛大学

(10)標準的質問項目はメタボを予想するか? CHIBA dataの構築と還元(その2), 佐藤眞一、柳堀朗子¹⁾、原田亜紀子²⁾。第24回日本疫学会学術総会(2014): 宮城

2008、2009連続受診した2008年度メタボ非該当者を対象に、2008年度の標準的質問への回答が2009年度成績を予測するか調べた。メタボ発現者の性・5歳刻み年齢階級を調整したオッズ比(95%信頼区間)は、「歩行速度が速い」がそれ以外に対して0.80(0.77-0.83)、「早食である」がそれ以外に対して1.48(1.43-1.55)だった。

- 1) ちば県民保健予防財団
- 2) 東京大学大学院医学系研究科生物統計学

(11)国内3地域における腸管出血性大腸菌 O157 株の clade 分布の比較, 平井晋一郎、横山栄二、江藤良樹¹⁾、瀬戸順次²⁾。第17回腸管出血性大腸菌感染症研究会: 茨城県

千葉県、福岡県及び山形県で分離された感染者由来の腸管出血性大腸菌 O157(O157)の内、疫学的関連性が確認されなかった菌株を、進化系統学的分類である clade に型別した。その結果、どの地域においても、clade 2、clade 3、clade 7、clade 8 が優勢に分布していた。また、異なる地域で分離された同一の clade について、Insertion sequence 629 保有パターンから集団遺伝学的解析を行ったところ、2002年から2007年に千葉県及び福岡に分布していた clade 12 間は、遺伝学的に異なると判定された。

- 1) 福岡県保健環境研究所
- 2) 山形県衛生研究所

(12)福岡県で分離された腸管出血性大腸菌 O157 の clade 解析と志賀毒素産生量の比較, 江藤良樹¹⁾、市原祥子¹⁾、前田詠里子¹⁾、平井晋一郎、横山栄二、世良暢之

¹⁾、堀川和美¹⁾。第 17 回腸管出血性大腸菌感染症研究会：茨城県

1994 年から 2012 年に福岡県で分離された感染者由来の腸管出血性大腸菌 O157 を進化系統学的分類である clade に型別し、志賀毒素の遺伝子保有状況及び産生量を調査した。その結果、clade 2、clade 3 及び clade 7 の分布割合が高かった。また、clade 7 は、他の clade と比べて、*stx 2c* 遺伝子の保有率が高かったが、VT 2 産生量は少なかった。さらに、clade 7 は、無症状性病原体保菌者から分離されることが多いことから、低病原性の clade であることが示唆された。

1) 福岡県保健環境研究所

(13)国内 3 地域における腸管出血性大腸菌 O157 株の clade 分布の比較, 平井晋一郎、横山栄二、江藤良樹¹⁾、瀬戸順次²⁾、市原祥子¹⁾、前田詠里子¹⁾、堀川和美¹⁾。第 34 回日本食品微生物学会学術総会：東京都

2002 年から 2007 年に千葉県及び福岡県で分離された clade 12 間について、遺伝学的に異なる集団と判定されたことを我々は報告した。そこで、調査期間を 1996 年から 2010 年まで延長すると、IS629 の保有パターンからは遺伝学的違いは確認されなかった。また、Minimum Spanning Tree を作成すると、2002 年から 2007 年の福岡県の clade 12 は特定の node に集積したことより、この期間に福岡県では特定の clade 12 が emerging していた可能性が示唆された。

1) 福岡県保健環境研究所

2) 山形県衛生研究所

(14)牛肉の生食規制が腸管出血性大腸菌感染症の発生に与えた影響について, 平井晋一郎。平成 25 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会 (招待講演)：千葉県

2012 年 7 月以降、飲食店において牛の生肉の提供が禁止された。この禁止が腸管出血性大腸菌感染症発生に与えた影響を評価するため、患者側及び病原体側から評価した。牛肉の生食禁止前後において、10 歳未満及び 20 歳代前半の腸管出血性大腸菌感染者数が大きく減少していたが、年間の感染者数はあまり減少していなかった。一方、感染者由来の腸管出血性大腸菌感染症 O157 (O157) 菌株を、進化系統群である clade に分類すると、禁止前後で clade の分布状況には変化が見られなかった。以上より、牛の生肉の提供の禁止後は、重症化のリスクの高い世代の感染者が減少したことより、一定の効果が確認された。しかし、感染者由来 O157 の clade 分布状況が変化していなかったことより、牛肉の生食以外の感染源が多いことが示唆された。

(15)腸管出血性大腸菌 O157 の進化系統グループの地域間比較, 横山栄二。平成 25 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会 (招待講演)：千葉県

千葉県、福岡県及び山形県で分離された感染者由来の腸管出血性大腸菌 O157 (O157) の内、疫学的関連性が確認されなかった菌株を、進化系統学的分類である clade に型別した。その結果、どの地域においても、clade 2、clade 3、clade 7、clade 8 が優勢に分布していた。また、異なる地域で分離された同一の clade について、Insertion sequence 629 保有パターンから集団遺伝学的解析を行ったところ、2002 年から 2007 年に千葉県及び福岡に分布していた clade 12 間は、遺伝学的に異なると判定された。

(16)腸管出血性大腸菌 O157 の SNP 解析による clade descendant 4/5 及び ancestral 4/5 の進化系統的決定, 横山栄二、平井晋一郎、村上覚史¹⁾。第 87 回日本細菌学会総会：東京都

我々は、Manning らが提唱した腸管出血性大腸菌 O157 の進化系統学的分類である clade を改訂し、新たな clade が存在することを報告してきた。しかしながら、新たに定められた clade が、進化モデル上の何処に位置するのかは評価されていない。そこで、次世代シーケンサーを用いて検出した一塩基多型 (SNP) に基づき、系統学的解析を行った。その結果、clade descendant 及び ancestral 4/5 は新たな SNP type の進化系統群であることが明らかとなった。また、clade 9 には異なる SNP type が存在する可能性が示唆された。

1) 東京農業大学

(17)ヒト及び鶏関係検体から分離された *Salmonella* *Infantis* の次世代シーケンサーを使用した系統解析, 安藤直史、横山栄二、村上光一¹⁾、志波優²⁾、村上覚史³⁾。平成 25 年度獣医学術関東・東京合同地区学会：群馬県

1995 年から 2005 年に福岡県内で分離された *S. Infantis* 菌株のうち、PFGE 及び RAPD による分子疫学的解析により異なるクローンであることが推定された 67 菌株について次世代シーケンサーを用いた全ゲノム解析を行ったところ、卵殻及び GP センター由来菌株と鶏肉由来菌株は異なる branch にクラスターした。これより、産卵鶏及び肉用鶏それぞれの飼育環境に特定のクローン由来の *S. Infantis* に感染していることが示唆された。一方、ヒト由来株は症状の有無に関わらず両方のクラスターに存在したことから、ヒトは鶏卵及び鶏肉の両方から *S. Infantis* に感染していることが示唆された。

1)福岡県保健環境研究所

2)東京農業大学ゲノムセンター

3)東京農業大学

(18) *Salmonella* *Infantis* の次世代シーケンサーを使用した系統解析, 菊池 俊、横山栄二、村上光一¹⁾、志波優²⁾、村上覚史³⁾。平成 25 年度全国公衆衛生獣医師協議会 研修・調査研究発表会：東京都

1995 年から 2005 年に福岡県内で分離された *S. Infantis* 菌株のうち、PFGE 及び AFLP による分子疫学的解析により異なるクローンであることが推定された 59 菌株について次世代シーケンサーを用いた全ゲノム解析を行った。卵殻および GP センター由来菌株と鶏肉由来菌株はそれぞれ異なる branch にクラスターしたが、ヒトは両方の branch にクラスターした。これにより、産卵鶏及び肉用鶏それぞれに由来する 2 つの進化系統のグループが存在し、その両方がヒトへの感染に関わっていること推測された。しかし、発症者由来株のみが集族する branch は存在しなかったことから、病原性の強い特定のクローンは今回の解析では *S. Infantis* には存在しない可能性が示唆された。

- 1) 福岡県保健環境研究所
- 2) 東京農業大学ゲノムセンター
- 3) 東京農業大学

(19) プロイラーから分離された *Salmonella Infantis* の次世代シーケンサーを使用した系統解析, 横山栄二、村上光一¹⁾、志波優²⁾、村上覚史³⁾。第 156 回日本獣医学会学術集会：岐阜県

1995 年から 2005 年に福岡県内で分離された *S. Infantis* 59 菌株について次世代シーケンサーを用いた全ゲノム解析を行った。卵殻及び GP センター由来菌株と鶏肉由来菌株はそれぞれ異なる branch にクラスターした。ヒト由来株もその 2 つの branch にクラスターした。これにより、産卵鶏及び肉用鶏それぞれに由来する 2 つの進化系統のグループが存在し、その両方がヒトへの感染に関わっていること推測された。

- 1) 福岡県保健環境研究所
- 2) 東京農業大学ゲノムセンター
- 3) 東京農業大学

(20) ヒトおよび鶏関係検体から分離された *Salmonella Infantis* の次世代シーケンサーによる系統解析, 横山栄二、村上光一¹⁾、志波優²⁾、村上覚史³⁾。第 34 回日本食品微生物学会学術総会：東京都

1995 年から 2005 年に福岡県内で分離された *S. Infantis* 59 菌株について次世代シーケンサーを用いた全ゲノム解析を行った。卵殻及び GP センター由来菌株と鶏肉由来菌株はそれぞれ異なる branch にクラスターした。ヒト由来株もその 2 つの branch にクラスターした。これにより、産卵鶏及び肉用鶏それぞれに由来する 2 つの進化系統のグループが存在し、その両方がヒトへの感染に関わっていること推測された。

- 1) 福岡県保健環境研究所
- 2) 東京農業大学ゲノムセンター
- 3) 東京農業大学

(21) 次世代シーケンサーの基本と細菌検査への応用 地方衛生研究所での試み(2)～新たな分子疫学への試み, 横山栄二。第 26 回地研全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会研究会：東京都

次世代シーケンサーを公衆衛生分野でどのように活用するか、という観点で、当所で実施した *Salmonella Infantis* の解析データに基づき解説した。

(22) 肝臓瘍から分離された *Desulfovibrio desulfuricans* の 1 例, 中澤武司、南條友央太、井上貫昭、佐々木信一、西田香南、大出恭代、三澤成毅、横山栄二、菊池俊。第 44 回日本嫌気性菌感染症学会：沖縄

肝臓瘍から分離された嫌気性菌を 16s rDNA の相同性検索により同定したところ、*Desulfovibrio desulfuricans* と同定された。

(23) 千葉県における日本脳炎ウイルスの浸潤状況について, 仁和岳史、小倉惇、堀田千恵美、小川知子。第 48 回日本脳炎ウイルス生態学研究会(2013):静岡

2002 年から 2012 年に採取したブタ血清と、2008 年から 2012 年に県内で捕獲した蚊を用いて日本脳炎ウイルス(JEV)抗体調査および JEV 遺伝子検出を行った。

ブタ血清からの HI 抗体、IgM 抗体、JEV 遺伝子検出、蚊からの JEV 遺伝子検出の全てにおいて陽性が認められたのは 2008 年のみであったことから、2008 年が最も JEV 活動が活発な年であったことが示された。さらに HI 抗体の検出時期の変化から 2010 年以降は JEV 保有蚊の出現時期にズレが生じた可能性が示唆された。

(24) 千葉県のマダニにおける病原体検出状況, 平良雅克、仁和岳史、小倉惇、堀田千恵美、小川知子。第 28 回地研全国協議会関東甲信静支部ウイルス研究部会(2013)：千葉市

感染症法において四類感染症に分類される日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症(SFTS)を媒介するマダニの病原体保有調査を行った。SFTS 遺伝子は未検出であったが、紅斑熱群リケッチア遺伝子がフタトゲチマダニ、オオトゲチマダニから検出された。これらのマダニは日本紅斑熱患者の推定感染地で採取されたものであり、その採取日も流行期である 4 月～7 月であったため、千葉県における日本紅斑熱のベクターはフタトゲチマダニとオオトゲチマダニであることが強く示唆された。

(25) 結膜炎患者の眼から分離されたアデノウイルス D 種 48,60,および 65 型(候補株)のリコンビナント型の新しいアデノウイルス, 藤本嗣人¹⁾、小川知子、花岡希¹⁾、小倉惇、堀田千恵美、仁和岳史、Gonzalez Gabriel²⁾、渡邊日出海²⁾。第 61 回日本ウイルス学会学術集会(2013)：神戸市

千葉県において結膜炎症状を示した患者の眼ぬぐい

液から分離されたウイルス (HAd_2012) は、48 型を含むいくつかの異なる系統の D 種 HAdV のリコンビネーションにより生じたことが示された。本事例は日本における 48 型関連ウイルスの最初の報告であり、60 および 65 型に候補株に関しても同様であった。

- 1) 国立感染症研究所感染症学センター
- 2) 北海道大学大学院情報科学研究科

(26)千葉県の放浪犬における紅斑熱群リケッチアに対する抗体保有状況について, 仁和岳史、平良雅克、小倉惇、堀田千恵美、小川知子. 第 28 回地研全国協議会関東甲信静支部ウイルス研究部会 (2013) : 千葉市

平成 24 年 7 月から平成 25 年 3 月にかけて、患者発生地域を含む千葉県南部で捕獲された放浪犬の血清を用いて、紅斑熱群リケッチアの浸潤状況の把握と、抗体保有状況調査の有用性について検討した。

平成 24 年の患者の推定感染地域から抗体陽性犬が確認された。ヒトとイヌの双方から抗体が検出されたことから、イヌにおける紅斑熱群リケッチアに対する抗体調査は紅斑熱群リケッチアの浸潤の把握に有用であると考えられた。

(27)千葉県における風疹ウイルスの動向について, 小倉惇、堀田千恵美、平良雅克、仁和岳史、小川知子. 第 52 回千葉県公衆衛生学会 (2014) : 千葉市

千葉県における感染症発生動向調査では、2012 年の第 24 週以降から風疹患者報告数が増加し始め 2013 年の第 16 週にピークを迎え、その後減少に向かった。風疹ウイルス (RuV) 遺伝子検査の陽性数の変動もこれを裏付ける結果であった。また、県内の風疹 HI 抗体保有状況は、風疹の大規模なアウトブレイクがあったにもかかわらず、ワクチン接種が推奨される抗体価 16 倍以下の者が一定の割合で存在していた。

(28)千葉県のイヌにおける狂犬病ウイルスに対する中和抗体保有状況, 仁和岳史、野口章¹⁾、井上智¹⁾、小川知子、田中俊光²⁾、千葉県獣医師会・感染症部会員. 平成 25 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会 (2014) : 千葉市

2008 年 12 月から 2013 年 3 月末までに採血を実施した飼育犬、引き取り犬と放浪犬の狂犬病ウイルスに対する抗体保有状況およびワクチン接種回数と抗体価の関係を調査した。

飼育犬と引き取り犬では 25.6% が感染防御に有効とされるレベルの中和抗体価を保有していないことが明らかとなり、中和抗体価の維持には少なくとも 2 回以上の接種の必要性が示された。また、放浪犬では 13% しか中和抗体価を保有しておらず、狂犬病発生時に感染を伝播する集団となる可能が示された。

- 1) 国立感染症研究所
- 2) 千葉市動物保護指導センター

(29)千葉県のマガニから検出された紅斑熱群リケッチア, 平良雅克、仁和岳史、小倉惇、堀田千恵美、小川知子. 平成 25 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会 (2014) : 千葉市

日本紅斑熱を媒介するマガニの紅斑熱群リケッチア遺伝子保有調査を行ったところ、フタトゲチマガニ、オオトゲチマガニから検出された。これらのマガニは日本紅斑熱患者の推定感染地で採取されたものであり、その採取日も流行期である 4 月~7 月であったため、千葉県における日本紅斑熱のベクターはフタトゲチマガニとオオトゲチマガニであることが強く示唆された。

(30)千葉県におけるマガニ被害の相談事例, 竹村明浩、小池裕、平良雅克、藤曲正登¹⁾. 第 66 回日本衛生動物学会大会 (2014.3): 岐阜

1982 年から 2013 年までに千葉県衛生研究所で受け付けた人に関わるマガニ相談の内、被害地域が千葉県内であると推定された相談事例について報告した。

地域により相談件数に偏りがあったが、千葉県内のほぼ全地域から相談があり、マガニの捕獲数が少ない都市地域からの相談も多かった。

同定したマガニは 2 属 3 種で、フタトゲチマガニ 29、キチマガニ 6、タカサゴキララマガニ 4 であった。フタトゲチマガニの相談が最も多かったが、2007 年以降は、タカサゴキララマガニの相談が増加してきた。

- 1) 千葉県

(31)タカサゴキララマガニ刺症の自験例, 藤曲正登¹⁾、竹村明浩. 第 29 回日本ペストロギー学会大会 (2013.11): 岐阜

マガニ被害の実態を知るため、千葉県衛生研究所の検査資料から被害の形態と原因種を解析し、また、人体への咬着が確認されたタカサゴキララマガニ若虫を吸血させ、咬着から飽血、落下までに要する時間と形態の変化について報告した。

1972~2011 年に衛生研究所が扱ったマガニ被害の件数は 55 件で、被害の主要な原因種はフタトゲチマガニであるが、直近の 5 年間では 5 例中 4 例をタカサゴキララマガニが占めた。

タカサゴキララマガニ若虫の刺咬症自験例の観察では咬着から飽血脱落までに 6 日を要し、満腹時の体幅は未吸血時の約 5 倍に肥大した。形態の大きな変化は 3~5 日目の 2 日間に起こることから、吸血時の形態から受傷時期、場所の推定が可能と思われた。

- 1) 千葉県

(32) **千葉県のマダニ刺咬被害例**, 藤曲正登¹⁾、竹村明浩. 第 65 回日本衛生動物学会東日本支部大会(2013.10):埼玉

千葉県衛生研究所で 1972~2011 年に記録されたヒトに関わるマダニ被害の相談について報告した。同定されたマダニは 4 属 7 種で、フタトゲチマダニ 30、キチマダニ 8、タカサゴキララマダニ、ヤマトマダニ、シュルツェマダニが各 4、タネガタマダニとクリイロコイタマダニが各 1、同定不能が 3 だった。刺咬が確認できた 5 種のダニの中で県内での被害が明らかなのはフタトゲチマダニとキチマダニ、タカサゴキララマダニだけだった。ヤマトマダニとシュルツェマダニは関東、中部山岳の登山者による移入例で、すべて咬着状態で発見された。県内感染の確実な 3 種のダニでは、体表徘徊や衣類付着など、咬着に至らない不快被害がほぼ半数を占めた。

1) 千葉県

(33) **千葉県における *Kudoa septempunctata* 検査の 2 事例**, 小池裕、竹村明浩、篠崎邦子. 第 52 回千葉県公衆衛生学会(2014) : 千葉市

Kudoa septempunctata (以下クドア) は平成 23 年 6 月に食中毒原因物質に追加され、平成 24 年の食中毒統計では 41 件報告されている。千葉県において、平成 25 年 7 月、喫食状況と発症状況からクドアを原因物質として疑う 2 事例の発生があった。提供されたヒラメまたは刺身混在品の残品を用い、顕微鏡検査とリアルタイム PCR を実施したところクドアを検出し、1 事例は食中毒と決定された。

(34) **健康食品中の医薬品成分の分析のため購入した市販試薬について**, 長谷川貴志、吹譚友秀、高橋和長、西條雅明、浜名正徳. 第 50 回全国衛生化学技術協議会(2013) : 富山市

健康食品の分析のための標準品として購入したオルリスタット(市販試薬)について、HPLC/PDA 及び LC/MS で分析したところ、フェノールフタレインと一致した。このことから、本試薬は表示されているオルリスタットとは異なる成分であることが判明したので報告した。

(35) **有害物質を含有する家庭用品の検査結果について**, 西條雅明、吹譚友秀、高橋和長、長谷川貴志、浜名正徳. 第 52 回千葉県公衆衛生学会(2014) : 千葉市

千葉県家庭用品安全対策事業において、平成 18 年度~24 年度の買上検査の結果をまとめたので、報告した。その中で、平成 18 年度~21 年度にかけて、ホルムアルデヒドの違反製品が年 1 件ずつ検出された。その違反率は約 0.6% であり、全国の違反率とほぼ同じであった。なお、平成 18 年度以降千葉県内(千葉市、船橋市、柏市

を除く)でホルムアルデヒド以外での違反事例は確認されていない。

(36) **超高速液体クロマトグラフィーによる健康食品中のスタチンの一斉分析**, 吹譚友秀、長谷川貴志、高橋和長、西條雅明、浜名正徳. 日本薬学会第 134 年会(2014) : 熊本市

健康食品中のスタチン 12 成分の一斉分析法を構築した。また、構築した分析法で脂質代謝異常症等の予防効果を暗示した健康食品について、スタチン含量の実態調査を行った。その結果、ロバスタチンが最大 4.85mg/包及びロバスタチン酸が最大 1.28mg/カプセル検出された。その他のスタチンは検出されなかった。

(37) **医薬品の定量法における粉碎方法の影響について**, 高橋和長、長谷川貴志、西條雅明、吹譚友秀、浜名正徳. 日本薬学会第 134 年会(2014) : 熊本市

日本薬局方に収載されている錠剤の定量法の多くは、錠剤を粉碎して粉末とした試料を用いる方法が採られているが、大部分の医薬品はその粉碎方法が定められていない。そこで、磁製乳鉢、めのう乳鉢及びステンレス製錠剤粉碎機による粉碎操作を行い、その粉碎方法の違いによる定量結果への影響を調査した。その結果、製品によっては、粉碎方法により定量結果に違いが生じることが分かった。また、ステンレス製錠剤粉碎機で粉碎した場合、容器に付着した粉末の回収が不十分であると、定量値が真値から離れてしまう可能性があることが示唆された。

(38) **医薬品の承認規格試験における問題事例について**, 高橋和長、長谷川貴志、西條雅明、吹譚友秀、浜名正徳. 平成 25 年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部第 26 回理化学研究部会研究会(2014) : 土浦市

医薬品の試験検査を実施する際に、製品の承認書に従って試験を行ったところ、承認規格に適合しない事例があった。その原因が、製品の品質によるものかどうか判断するため、追加の試験を行った 2 事例について報告した。

(39) **千葉県における遺伝子組換え食品の検査状況および検知不能事例**, 中西希代子、林千恵子、橋本博之、本郷猛、中村和宏、池田恵. 第 50 回全国衛生化学技術協議会年会(2013) : 富山

平成 22~24 年度に千葉県において収去された食品 241 検体について遺伝子組換え食品(GM 食品)の検査を実施した。コーンスナック菓子 1 検体の Bt10 およびピーマン 1 検体が検知不能となったが、それ以外のばれいしょ加工品、とうもろこし加工品、パイヤおよび米加工品はすべて検知可能で陰性であった。大豆および大豆加工品は、ラウンドアップ・レディ・大豆(RRS)の

定量値が基準値の 5%を超えるものはなく、定量下限値を超えた検体の混入率は 0.1~0.9%であった。また、コメ陽性対照用試験で 48 未満の Ct 値が得られず検知不能となったビーフンについて、PCR 反応液に添加する DNA 試料液の濃度を 10~50 ng/μL に調製して検討したところ、50 ng/μL DNA 試料液では、抽出 DNA の 10 試料液中 8 試料液 (20 ウェル中 18 ウェル) で 48 未満の Ct 値が得られ、通知法より高い濃度の DNA 試料液を用いることにより検知が可能になると考えられた。

(40)GM,アレルゲン検査における DNA 抽出法の検討, 橋本博之. 第 50 回全国衛生化学技術協議会年会(2013): 富山

GMO の検査、アレルギー物質を含む食品の検査、農産物の品種特定など多くの検査において試料から抽出した DNA が用いられている。GMO の検査、アレルギー物質を含む食品の検査では DNA 抽出用のカラムにシリカゲル膜タイプキット (DNeasy plant mini kit, GM quicker 等) やイオン交換樹脂タイプキット (Genomic-Tip) 等が用いられているが、試料となる食品の原材料や添加物等の違いにより抽出される DNA やその性状が異なると考えられる。DNA 抽出法の一つである CTAB 法は適用範囲が広く純度の高い DNA を得ることができる優れた方法として評価されているが、これまでキット化されていないことから操作が煩雑であり、また収量が低いことが難点であった。今回、CTAB 法を応用した DNeasy mericon™ Food キットが開発されたことから、収量の向上を考慮した一部改良法を考案し、58 検体の食品を用いてキットの操作性、抽出 DNA の収量・純度、PCR の増幅の可否を指標に、各食品に対するキットの適応性を検討した。併せてこれまで GMO の検査、アレルギー物質を含む食品の検査等に用いられていたその他の抽出キットとの比較検討を行った。

(41)イノシシ肉の放射性セシウム濃度分布について, 林千恵子、中村和宏、本郷猛、橋本博之、中西希代子、池田恵. 第 50 回全国衛生化学技術協議会年会 (2013): 富山

平成 24 年 9 月に千葉県で捕獲されたイノシシ肉から一般食品基準値 100 Bq/kg を超える放射性セシウムが検出され、原子力災害対策特別措置法に基づく出荷制限の指示があった。これを受け、県では新たに出荷・検査方針を定め、現在は県内 5 力所の野生獣肉処理加工施設で管理されるイノシシ肉に限り出荷制限が解除されている。今回、当研究所のゲルマニウム半導体検出器で精密検査の結果が 100 Bq/kg を超えたイノシシ肉の半身を用い、スクリーニング検査の測定部位であるモモ以外の部位について放射性セシウム濃度を比較したところ、モモが食用部位の中で最も高い結果を示した。以上のことからモモを検査対象部位とすることは妥当と考えられた。

(42)ハチミツ中のクロラムフェニコールを含めた動物用医薬品一斉分析法の検討と妥当性評価, 本郷猛, 橋本博之, 中村和宏, 林千恵子, 中西希代子, 池田恵. 第 50 回全国衛生化学技術協議会年会(2013): 富山

当研究室で開発したハチミツ中の動物用医薬品 37 種類の一斉分析法について、未検討であったサルファ剤 4 種類、ニューキノロン系 4 種類を新たに加えた 45 種類の一斉分析法の妥当性評価を行った。対象食品は夾雑成分が多く分析が困難と考えられている百花蜜を用いた。その結果、妥当性評価ガイドラインにおける性能パラメーターの目標値に適合したことから、本法は一斉分析法として有用であることが確認された。

(43)レジオネラ対策における浴槽水中の ATP 検査の有用性に関する検討, 富田隆弘、岸田一則. 日本防菌防黴学会第 40 回 年次大会(2013): 大阪府

県で購入した ATP 測定器 (サンプラーの種類: 拭き取り用、水用サンプラー) を用いて簡便なサンプリング方法の検討を行った。拭き取り用サンプラーの綿棒部分を滅菌精製水に浸して、浸水時間ごとの吸水量を測定したところ、水用サンプラーと有意差なく吸水できることがわかった。またレジオネラを添加して、レジオネラ属菌の菌数と ATP 値の関係を調べたところ両者とも有意差なく、検量線は直線性を示した。さらに県内の公衆浴場等 52 施設で採水された浴槽水 95 検体の ATP 値を測定したところ両者の間に有意差はなく、ATP 値の上昇とともにレジオネラ属菌の検出率が上昇することが確認できた。これらの結果から、拭き取り用サンプラーは従来の拭き取り検査のほかコンタミネーションの恐れがなく採水できる水用サンプラーとして、環境衛生監視員が現場検査の際に有効に活用でき、水用サンプラーは、拭き取り検査に比べて簡易に採水できることから、事業者が自主管理を目的として使用することに適しているものと思われた。また今回の検討では ATP 値が 50RLU 以上になるとレジオネラ属菌検出率が高くなる傾向が確認された。今後は千葉県として具体的な管理値設定を検討することが必要と考えられる。

(44)内視鏡消毒剤オルトフタルアルデヒドの作業環境測定, 菌部真理奈、小高陽子、富田隆弘、関根広幸、長谷川康行、岸田一則. 第 52 回千葉県公衆衛生学会 (2014): 千葉市

県内 A 医療施設の内視鏡洗浄室において、内視鏡消毒剤として使用されているオルトフタルアルデヒド (OPA) の作業環境測定を実施したところ、OPA 濃度は入口の扉を開放した状態では 0.73ppb、閉鎖した状態では 0.95ppb であった。通常の作業環境 (扉開放状態) とほぼ同程度の OPA 濃度でも、呼吸器症状等の症状を訴える報告があることから、保護具の装着や十分な換気といった曝露防止対策の強化が重要と考えられた。

3) 著書等

(1)保健師・看護師の結核展望 102号「千葉県内の結核菌伝播状況」2013年後期号, 小林八重子. 公益財団法人結核予防会出版調査課

9. 研究談話会

衛生研究所職員に対する研修の一環として、公衆衛生の諸問題を勉強することを目的としている。

内容は「研究室ごとに取り組んでいる調査研究の報告」や「最新トピックスの紹介」等で、25 年度は 3 回実施した(第 106 回については保健所職員も対象とした)。

延べ回数(実施日)	題 名	演 者
第 105 回 (10 月 17 日)	千葉県内の結核伝搬状況 ～ 結核対策特別推進事業データベース解析結果～	感染症学研究室 小林八重子
第 106 回 (12 月 16 日)	千葉県のノロウイルスによる胃腸炎集団発生事例 - 2010/2011、2011/2012、2012/2013 シーズン -	ウイルス研究室 堀田千恵美
第 107 回 (3 月 19 日)	平成 24 年度第 2 回水質検査外部精度管理結果報告 (硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素)	生活環境研究室 菌部真理奈

10. 公衆衛生情報の提供

1) 広報誌の発行

千葉県衛生研究所年報 61 (毎年発行)

Health21 No.26 発行

- ・千葉県衛生研究所長に就任して 健康危機と建て替え 所長 一戸貞人
- ・腸管出血性大腸菌感染症について～牛肉の生食禁止でみえてきたこと～ 細菌研究室 平井晋一郎
- ・遺伝子組換え食品について～取り巻く状況を検査の立場から～ 食品化学研究室 中西希代子

2) 研究所ホームページ

千葉県衛生研究所 <http://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/index>

千葉県感染症情報センター <http://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/index.html>

11. 受賞・表彰

受賞・表彰	氏 名	課・室	受賞年度
秩父宮妃記念結核予防保健看護功労賞	小林八重子	感染症学研究室	25 年度
第 34 回日本食品微生物学会学術総会優秀発表賞	横山栄二	細菌研究室	25 年度
全国公衆衛生獣医師協議会平成 25 年度調査研究発表会 優良賞	菊池俊	細菌研究室	25 年度
地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部長表彰	小倉誠	健康疫学研究室	25 年度

千葉県衛生研究所年報
第 62 号

平成 26 年 12 月 22 日 発行

編集・発行 千葉県衛生研究所
〒260-8715 千葉県千葉市中央区仁戸名町 666-2
TEL 043-266-6723
<http://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/index.html>

印刷 株式会社千代田
TEL 043-268-3322